

塩竈の歴史と文化を愛するすべての皆様へ

NPOみなとしほがま からのお願い

本町御釜神社前の ^{しょうきえん}松亀園 (旧えびや旅館) の 建物がまもなく解体されようとしています

貴重な建物の保存と活用にむけて皆様のご支援を！

東北有数の歴史と文化を有する塩竈も、東日本大震災により大きく被災しました。長きにわたり塩竈の景観として親しまれ、まちの歴史を物語っていた貴重な建物たちが今、次々とその姿を消しています。

そうしたなか、塩竈のシンボルである御釜神社の向かいにある松亀園（旧えびや旅館）の建物が、2013年1月早々にも解体されようとしています。



松亀園外観（南西から）



（南東から）

こうしたなか当NPOでは、建築史の専門家である東北工業大学工学部の高橋恒夫教授に緊急の建物調査をお願いしました。その結果が、先日12月22日にマリゲートで開かれた当NPOの総会記念講演会において報告され、それによるとこの建物は、明治初期に建てられた当地に現存するほぼ唯一の木造三階建ての建築であり、内部は旅館・遊郭として使われた当時の様子がよく残っていること、一部浸水したものの建物はしっかりしていること、鹽竈神社の門前町、仙台藩の門戸港として繁栄した塩竈の歴史を雄弁に物語るたいへん貴重な歴史遺産であることなどが明らかにされました。

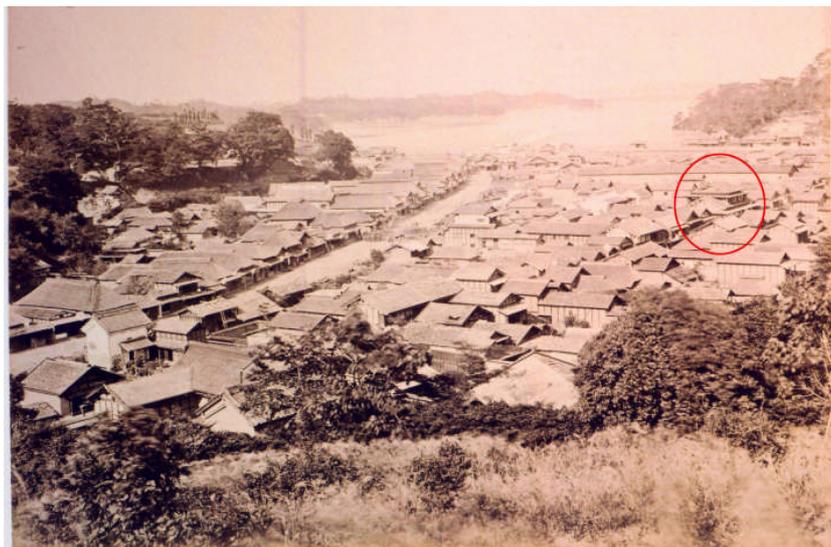
それを受けてのシンポジウム（コーディネーター・東北学院大学経営学部・斎藤善之教授）において、出席された方々から、なんとかこの建物の解体を中止してもらい、これを「塩竈の歴史と文化を愛する市民の宝」として、さらに東日本大震災からの「塩竈の歴史・文化を生かした復興まちづくりの象徴」として後世に継承できないかという意見が多数出されました。これを受けて出席者多数のご賛同により、「松亀園の建物の保存活用基金」を開設することとなりました。

塩竈の歴史と文化を愛する市民の皆様、そしてこのことに関心のあるすべての方々に、ぜひ下記の募金へのご支援を賜りたく、ここに謹んでお願い申し上げます。

- 募金名称 しおがま松亀園（旧えびや旅館）保存活用支援基金
目標額（当面の建物保存のために） 1,000万円
- 募金主体 特定非営利活動法人 NPOみなとしほがま 歴史的建造物保存活用部会
- 振込先 ゆうちょ銀行 振替口座 18180-1-9192111
上記振込先名 トクヒ）エヌピーオーミナトシホガマ
- 直接募金受付 上記の振込のほか、亀井邸にて直接の募金受付もしております。
- お問合せ TEL 022-364-0686（亀井邸）9：00から16：00（水・木定休日）
Eメール minato-s@castle.ocn.ne.jp（事務局）

松亀園（旧えびや旅館）について

慶応3年（1867）、町内の大部分を焼失させた塩竈大火の後、その復興のなかで明治初期に建築された建物と見られている。明治19年（1886）以前の塩竈を写した古写真にもその存在が確認できる。



江尻山から塩竈町と千賀浦を望む（明治19年以前）



赤○部分の拡大図

〔東北工業大学 高橋恒夫教授の所見〕

- 松亀園が立地する場所は、塩竈のシンボルである御釜神社（塩竈地名発祥の地）の真向かいの屋敷地で、中世まで遡れる塩竈の都市空間の中核であった。
- 明治19年（1886）以前の古写真で確認できるなど、明治初期の建設と推定できる木造3階建ての建物として、また港町塩竈の旅籠遺構としても貴重である。
- 各部屋に多種多様な天井が採用されている（竿ぶち天井、格天井、折り上げ天井など）。欄間や長押にも港町らしいデザインが見られる。特に長押には貝殻の釘隠しが見られるほか、貝殻細工（帆掛け舟など）が埋め込まれている。
- 3階は「桜の間」、「松の間」、「竹の間」で構成され、当時の室内意匠をよくとどめている。特に「桜の間」には天井一面に桜の木と満開の桜の花が描かれ、「竹の間」には丸竹を割った長押を採用している。



桜の間の天井一面に描かれた桜の樹



貝殻細工の飾り



釘隠し



風情を残す階段

NPOみなとしほがま による建物保存の取り組み

2003年12月の設立以来、市民の力でまちを活性化していこうという志のもと、本堂の新築に伴い解体処分が予定されていた江戸時代の建物「鹽竈神社別当法蓮寺向拝」を「浦霞醸造元（株）佐浦事務所玄関」へ移築保存し、また解体が予定されていた大正時代の和洋併置式住宅「（株）カメイ（旧亀井商店）初代社長宅」を「海商の館・亀井邸」として保存するなど、塩竈市、市内企業、市民団体、市内外の有志各位のご援助、ご協力のもと歴史的建築の保存活用のとりくみを行ってまいりました。



海商の館 亀井邸



佐浦事務所玄関